



みなとかまいし通信

(釜石地区生活応援センターだより)
平成24年1月15日号

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

みなとかまいし通信は、東日本大震災により発行を休止しておりましたが、今月号から再開します。

釜石地区生活応援センター・釜石公民館
〒026-0025 釜石市大渡町3-15-26(釜石市保健福祉センター内)
電話 22-0180 FAX 22-6375
発行責任者 佐々木育男(釜石地区生活応援センター所長・釜石公民館長)

行事予定

地区の集会施設で健康教室を行います。お誘いあわせの上ご参加下さい。
(申し込みは不要です。)

復興まちづくり基本計画・復興まちづくり懇談会～釜石地区

★健康教室(大只越町地区)

日時:1月30日(月)13:00～15:00
会場:カトリック釜石教会
内容:心と体のリラクゼーションセミナー
講師:沿岸南部教育事務所
村田浩隆氏(トレーニング指導士)

★健康教室(浜町地区)

日時:1月31日(火)13:00～15:00
会場:浜町集会所
内容:簡単手作りケーキとミニ勉強会
講師:市健康推進課栄養士
生活応援センター保健師
持ち物:エプロン、三角巾

★健康教室(大平町地区)

日時:2月1日(水)13:00～15:00
会場:大平集会所
内容:心と体のリラクゼーションセミナー
講師:沿岸南部教育事務所
村田浩隆氏(トレーニング指導士)
岩手県立大学社会福祉学部
遠山宣宜教授(臨床心理士)



～大切な人の悩みに気付いていますか～ ゲートキーパー養成講座のお知らせ

ゲートキーパーとは、身近な人の悩みに気付いて声をかけて、話を聞いて、一緒に必要な支援を探す人のことです。悩みをかかえた人が、自分から相談することは簡単ではありません。誰かに声をかけてもらうことを待っている人がたくさんいます。身近な人同士が支えあうことの大切さや、人との上手な関わり方、自分自身の心のメンテナンスについて一緒に考えてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

日時:①1月27日(金) ②2月6日(月) ③2月17日(金) ④3月1日(木)

いずれも13時30分から15時まで

会場:釜石市保健福祉センター9階

内容:秋田大学大学院医学系研究科教員による講義

- ①身近な人を支えるということ(佐々木久長准教授)
- ②お互いに支えあう地域づくりをめざして(本橋豊教授・研究科長)
- ③支援するための関わり方と自己管理術(上村佐知子助教)
- ④こころの健康と病気を理解しよう ～うつと不眠を中心に～(新山善嗣教授)

申し込み

1月25日(水)までに電話又はFAXで住所・氏名・年齢・電話番号をお知らせ下さい。

〈お問い合わせ・お申込み先〉

釜石地区生活応援センター 電話:22-0180 FAX:22-6375

主催:釜石市・秋田大学・国立大学協会(平成23年度震災復興・日本再生支援事業)

『復興まちづくり基本計画』は、東日本大震災後のまちづくりの基本的な方向性を示す計画となります。この計画案が12月22日釜石市議会定例会で可決されました。

この計画について意見交換を行うため、「復興まちづくり懇談会」が開かれました。

釜石地区では、12月14日の嬉石町を皮切りに、12月28日まで開催されました。

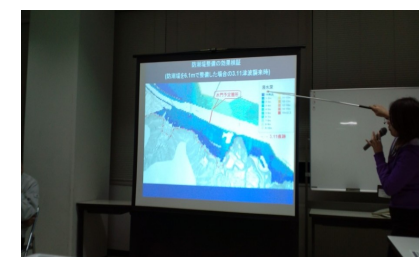
開催月日	対象町名
12月14日(水)	嬉石町
12月26日(月)	新浜町・東前町・浜町
12月27日(火)	只越町・大只越町・天神町
12月28日(水)	港町・大町・大渡町・鈴子町・駒木町

1 復興まちづくり基本計画について

目指すべき釜石の将来像を「三陸の大地に光輝き希望と笑顔があふれるまち釜石」とし、復興まちづくりを進める4つの基本方針と、この方針に沿った7つの基本目標のもとで、将来像の実現を目指します。

4つの基本方針と7つの基本目標

(1)災害に強い都市構造への抜本的転換
基本目標1 暮らしと安全と環境を重視したまちづくり
基本目標2 絆と支えあいを大切にするまちづくり
(2)この地で生き続けるための生活基盤の再建
基本目標3 生活の安心が確保されたまちづくり
基本目標4 人やもの、情報の交流拠点づくり
(3)逆境をバネにした地域経済の再建
基本目標5 ものづくり精神が息づくまちづくり
(4)子どもたちの未来や希望の創造
基本目標6 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり
基本目標7 歴史文化やスポーツを活かしたまちづくり



2 地区別土地利用について

・最大規模(東日本大震災級)の津波に対して浸水深が2m以上※となる場所は、非住居系の土地利用を検討。浸水深が2m未満※となる場所は、一定の規制を加えた上で住居系の土地利用を検討。
※「浸水深2m以上、未満」については現在検討中で確定ではありません。

- ・避難路、避難施設へのネットワークを整備。
- ・防潮堤を標高4mから6.1mにかさ上げ整備と甲子川河口に水門を整備。
- ・大渡橋以東の拠点性、歴史性を踏まえて、公共施設の再配置を検討。
- ・港町には防浪機能を有する公園の整備を検討。
- ・鈴子町に消防庁舎を建設。

※地区別土地利用については、今後、さらに各地区で説明会を開催する予定です。